第8回都城制研究集会　国際シンポジウム

東アジア古代都城の立地環境

日時：2013年12月15日(日)　10:00～18:00

場所：奈良女子大学 文学部 N棟 N202講義室

10:10～10:50　舘野和己(奈良女子大学)「日本都城の環境と思想」

10:50～11:30　出田和久(奈良女子大学)「藤原京・平城京の立地環境」

11:30～12:10　村元健一(大阪歴史博物館)「難波宮の立地環境」

（休憩）

13:10～13:50　斉東方(北京大学考古文博学院)「中国都城の立地環境」

13:50～14:30　妹尾達彦(中央大学)

「中国三都の立地環境ー建康・長安・洛陽の自然と社会ー」

14:30～15:10　上野邦一(奈良女子大学)「ベトナム昇竜城の立地環境」

（休憩）

15:30～16:10　李炳鎬(韓国国立中央博物館)

「韓国古代都城の立地環境ー高句麗と百済を中心にー」

16:10～16:30　コメント　山田隆文(奈良県地域振興部)

「新羅都城の立地環境」

（休憩）

16:40～18:00　討論

司会：積山洋(大阪歴史博物館)・西村さとみ(奈良女子大学)

申込不要　入場無料

あらまし

古代都城は、王権の本拠地として、支配を実現し維持するのにふさわしい場所に造営された。それは地勢や水の利などの自然環境、防御、交通の便宜などの観点から選ばれた。

さらに、環境・立地などの条件は、思想的にも解釈し直された。そのことは平城遷都の詔の「四禽図に叶い、三山鎮めをなし、亀筮並びに従う」という言葉に明確に示されている。

そして、奈良盆地を南北に貫く下ツ道が平城京の中心軸として選ばれ朱雀大路となり、京内には都城を鎮護するための大安寺・薬師寺などの諸寺院が造られたように、都城としての環境が整備された。このように都城にとって、自然の立地環境とともに、思想的環境も重要な要素である。

日本古代都城を研究するためには、東アジア諸国の都城も俎上に載せ、検討していかねばならない。いずれも中国都城の影響を強く受けつつも、独自性を主張しているからである。

そこで、今回の都城制研究集会は、日本のみならず中国・韓国の研究者を交え、ベトナムも対象に加えて、各国の都城をめぐる立地環境と思想的環境の問題、それにふさわしい都市計画や施設のあり方などについて論じていく。

主催：奈良女子大学 古代学学術研究センター
共催：都城制研究会(科学研究費補助金研究「大阪上町台地の総合的研究ー東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一類型ー」研究代表：脇田修)
科学研究費補助金研究「古代都城・都市をめぐる環境論」(研究代表：舘野和己)研究グループ

問合せ先：奈良女子大学古代学学術研究センター
〒630-8506　奈良市北魚屋東町　奈良女子大学コラボレーションセンター205
TEL＆FAX　0742-20-3779（代表）　E-mail　kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp

イラストは藤野千代『よみがえる天平文様』光村推古書院より「北倉042金銀平脱八花鏡」「北倉150花氈第15号」を使用しました。